

# 乙女椿日記

田中椿



この日記は私の生きる指針です。  
針を曲げては使い物にならぬ。

弥生某曰

肉じゃがは作れませんということ。

知合いとカフェーに入る。ローズティを頼んだ処、「女の子らしいなあ、なかなか、あまり飲まないね。」と誉め云葉はなはを。相手は、茶化したのか、馬鹿にしたのか知らないけれど。私は賛辞と受け取っておきます。どうも有難う、とお礼申し上げる。しかし、「ううん、まあ、普通は飲まないよね、ちよつとね。」と続きました。ああだから君は所詮知り合い止まりなんだ全く分かつちやいなあ常時結婚したいって云ってるけど当分無理だよなあツマンナイやつだナ。

当然の事なのです<sup>i</sup>。椿は乙女なのですから。味覚も満足に発達していない十歳の頃から、おこずかいをほたいてローズティやローズジャムとか、美味しいって、判らないのに、無理して飲み

i 乙女は薔薇好きと決まっています。

続けてきたのですから。それで今、ローズのふくよかな甘美を美味しいと戴けるのですし<sup>ii</sup>、花卉の戴き方も善く承知して居ります。葉のシヨコラの作り方も。ええ、善く理解<sup>わか</sup>つて居ます。こんな時は、アールグレイやカプチーノを頼めばよいこと<sup>iii</sup>。又は、美容の為と答えればよいことを。椿は本当に善く判つて居るのです。でも云えない。椿はそれでもローズティをお願いするし（勿論お茶は全般好きだけけどサ）、美容の効果を第一に期待しては居ないのですから。だって、大好きなお花の中でも薔薇は別格！其の薔薇を戴いているのだもの！！！

おごりのはたちの頃<sup>iv</sup>から、得意料理はと問はれると、お茶を入れること、と答えています。紅茶でも日本茶でも中国茶でもチャイでも何でも。間違つても肉じゃがとかカルボナーラとか、作れたとしても、そう答えては不可なのです。

乙女は、乙女信念を貫かねばならぬ。だって、そうでないと生きていけないもの。もし、素敵な方が、和食が好きと仰<sup>おっしゃ</sup>られたら、思わず、私は和食が得意ですとぼろりと口をついて出てしまう（其の日から猛練習だ）かもしれないませんが、出来もしない料理を得意と云う、下らない嘘<sup>v</sup>をついて、十人並み以下のどうでもよい男性の気を引くなんてとんでもない！ 精精、隙を狙つて気持ちの悪い口唇を押し付けられるのが関の山でしょう。幸か不幸か、そ

ii ベルばらのオスカル様も口にしていらつしゃいました。

iii アールグレイもカプチーノも凄く好きです。唯、薔薇には敵わないということ。

iv はたちの枕詞はおごりと決めています。

v 椿は嘘をつくのは好きです。

のどうでもよい十人並み以下と付き合ったとしても、後で発覚し、幻滅されるのです。どうでもよい人から。だって、どうでもよいから料理の練習をしないんですよ。いじましい嘘をつけて自らを貶めたくはないの。そんな人生ならば椿は進んで放棄します。

